

現代の思春期青年期を考える

*当財団(講座)は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、(公財)日本臨床心理士資格認定協会より「短期型研修会(ワークショップ)」の承認を受けております。<承認期間:2022年7月2日~2027年7月1日 承認番号:20210392>
なお、本講座は2ポイント(予定)となります。

期 日: 2022年7月2日(土)・7月6日(水)のいずれかのご希望日

※ご希望日を必ず通信欄にご記入・ご入力ください

受講対象: 小児科医師、精神科医師、臨床心理士、助産師、保健師、保育士、教師、
社会福祉関係者など各機関・現場で子どもに関わる専門家および興味のある方々

申込期限: 2022年6月25日(金)

(お申込みは先着順となりますが、期限前に募集を終了する場合がございます)

受講料: 7,500円(税込)

配信方法: 『Cisco Webex』を使用し、配信 ※事前承認制です

本講座は事前にビデオ収録し、当日オンラインで配信する講座です

主 催: 公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021

東京都豊島区高田3-19-10

スタンレー・ホールが青年期という概念を提示したのが1906年である。これは反抗期という心理的過程を生み出した。そして、私たち精神科医・臨床心理士・教育関係者が再び青年期に注力するようになったのが、E.H・エリクソンの同一性拡散症候群(登校拒否、ひきこもり、思春期やせ症、手首自傷症候群、境界性パーソナリティ障害など)が提示された1960年代になってからである。ケースの病態への関心とともに、治療者たち自身も自らの青年期のあり様にも熱くなっていたことを思い出す。かくて2000年を迎えた。青年期病態が再び変貌してきたことはだれの目にも明らかである。本講座では、この三つの四半世紀の青年期の変容を見据えて、自傷傾向、破壊的攻撃傾向、そして親ガチャ、毒親が一般化した思春期青年期の前段階の様態に注目して、それぞれの専門の立場から論じてもらいたいと考えている。

【企画講師:市ヶ谷ひもろぎクリニック 名誉院長 牛島 定信】

<プログラム>

※時間割・テーマ等が変更となる場合があります。予めご了承ください。

	時間	テーマ	講師
各 日	10:50頃~	オンライン講座の事前案内	
	11:00~12:00	臨床現場からみえてくる 現代の思春期青年期	市ヶ谷ひもろぎクリニック 名誉院長 牛島 定信
	12:00~13:00	休 憩	
	13:00~14:00	最近の青年たちにみる自傷・依存行動の 特徴と対応	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長 松本 俊彦
	14:10~15:10	最近の青年たちにみる 暴力行為をめぐって	東京医科大学 精神医学分野 准教授 榎屋 二郎
	15:20~16:20	児童精神科現場で出会う 発達障害・逆境体験ケース	うしじまこころの診療所 院長 牛島 洋景